

山田みやこの活動報告

令和4年6月16日(木)

連合栃木総研・栃木県労福協 2022年度 合同講演会 「ヤングケアラーの現状と課題」

1) ヤングケアラーの現状と課題

講師 仲田 海人氏(那須塩原市ヤングケアラー協議会・作業療法士)

仲田氏は姉がグレーゾーンの発達障がいと親子関係も悪くなり倉庫で寝起きするなど、家が安全な場所ではなかった(きょうだいヤングケアラー)。両親も体調を崩し医療保護入院の姉の親代わりとなり、20代でダブルケアの状態だった。家族以外の大人に相談してみたが理解が得られず、支援には繋がらなかった。

親亡き後は家族の役割をきょうだいが担うと考えられている。ケアラーに寄り添った地域づくりをするためには、家族で抱えないために大切な住居支援としてグループホームを増やす取り組みが必要。

また外国籍の家族で親が日本語を話せない場合、子どもが通訳として仲介が求められる(行政機関に同伴、家族内の意思疎通など)。各相談窓口にて言語通訳のアプリなど導入の必要がある。

○ 那須塩原市ヤングケアラー協議会の取り組み

運営主体は地域包括ケアシステムを構築する「にしなすケアネット」。市民、自治会役員、民生児童委員、市民活動家、議員、行政職員、医療・介護・障がい・児童分野の事業所、企業等が地域課題について話し合い、実践に向けた検討をしている。

○ 主な2つの活動として

- ①市民への啓発や実態把握、頼り先があることや気持ちを話す場があることをヤングケアラー本人や家族、またその周りの人たちに伝える。
- ②ヤングケアラー家庭のケース検討、ヤングケアラー本人が参加できる子どもの居場所の紹介。全世代が相談できる「ケアラーLINE相談 那須塩原」の設置開設。

2) 那須町議会「那須町ケアラー支援条例」の制定について

報告者 室井 高男氏(那須町議会議員 民生文教常任委員会 委員長)

竹原 亞星氏(那須町議会議員 民生文教常任委員会 委員)

① ケアラー支援に向けた取り組みについて

2015年12月 那須町で介護疲れの殺人事件発生

那須町の高齢化率 42.0%(令和3年10月現在)

令和3年度民生文教常任委員会で高齢者対策として「ケアラー支援条例」制定について調査し、先進事例を参考に条例案を作成。

令和3年12月 全員協議会で協議、その後パブリックコメント実施。

令和4年3月14日 議会で可決。

② 那須町ケアラー支援条例の概要

介護ケアラー、ヤングケアラーを社会全体で支援するため、基本理念・町の責務・町民・事業者・関係機関等の役割を明らかにし、総合的・計画的な施策を推進する。すべてのケアラーが健康的で文化的な生活を営むことができるよう制定した。

※条例制定後、支援を必要とするケアラーの把握・ケアラーの意向を尊重し、相互連携でケアラー支援の実施のため地域住民の周知、理解そして行動が何よりも求められる。

